

第1回 骨粗鬆症サポーター協議会（H30.7.7）

発表内容

「当院の骨粗鬆症地域連携の取り組み」

東埼玉総合病院では骨粗鬆症の地域連携において「DXAの共同利用」、「骨粗鬆症地域連携外来」、「骨粗鬆症診療連携」を柱に取り組んできました。DXAは当院に平成17年11月に導入され、骨粗鬆症外来の開設や骨粗鬆症リエゾンサービス委員会の発足による患者の掘り起こしによりその測定件数は毎年増加してきました。DXAの共同利用は平成20年度に始まり、平成27年度に骨粗鬆症リエゾンサービス委員会を立ち上げて利用を推進したこともあり、こちらの件数も近年増加しています。

共同利用を推進する中で、検査の結果の説明、診断、治療方針を当院の専門医から患者さんへ説明して欲しいと地域の先生からの要望があり、骨粗鬆症地域連携外来を平成26年6月から開始しました。平成28年度までにご紹介頂いた105症例の半数以上が骨粗鬆症と診断され地域の先生方のもとで治療を開始しています。また、骨粗鬆症地域連携外来にご紹介頂く患者さんにご迷惑をおかけしないよう、木曜午後の枠の他に月曜日午後の枠も増設し対応しています。

他の医療機関からだけでなく、当院に骨折で入院した患者さんや、他の疾患で入院して骨粗鬆症が疑われた患者さんにつきましては当院で初期評価をして、状態が安定した後、地域の連携医療機関に診療連携というかたちで継続治療をお願いしています。そして半年に一度、当院を受診して頂き、専門医が検査、判定をしています。

骨折予防、骨粗鬆症治療を推進していけば、検査や受診を希望される患者さんは増加すると思われる、そのような状況の中、限られた医療資源を有効に利用し、患者さんの治療継続に貢献していくには、医療機関同士のつながりが大切で、それは医師同士だけでなく、多くの職種のつながりも求められていくと思われま

東埼玉総合病院

石飛 裕樹